

山形村

1 地域の概要

[位置および立地条件]

- 県のほぼ中央に位置し、松本盆地西南部の台地上にあり、農耕地は標高650m 付近を緩やかに傾斜しつつ広がっている。

[農業構造]

- 農家数（2000年センサス）は、総戸数673戸、うち販売農家508戸。専業別では専業が155戸、第1種兼業152戸、第2種兼業201戸である。
- 耕地面積（平成16年調査）は818haで、田208ha、畑610ha（うち樹園地72ha）である。
- 主な作目は、水稻（平成16年120ha）、飼料作物（同70ha）、野菜（ネギ、レタスなど）、果樹（リンゴ）、畜産（乳用牛および肉用牛で飼育戸数10戸）である。

[振興方向]

- 専業農家における高齢化と労働力不足を補う地域営農システムの構築が重要な課題であり、兼業・高齢農家などと補完しあうよう地域農業経営の再編成を進めていく。

[J A]

- J A 松本ハイランド（農地保有合理化法人）

[支援センター]

- 村とJ Aそれぞれに担当者1名が配置されている。

2 GISの整備・取組み経過

[導入年度及び利用した補助事業]

- 平成 14 年度に「台帳システム」を導入
- 平成 16 年度に「地図システム」を導入
- 農地情報管理システム整備事業

[導入方法]

- 農家基本台帳システムは、紙の情報から新規に構築
- 地図情報は、税務課（平成 14 以前に導入済）が保有する「地籍図」、「地形図」、「航空写真図」データを活用
- 住民基本台帳と固定資産土地台帳を利用して農家・農地台帳を作成

[管理主体]

- 総務課（庁内 LAN による統合型システム）

3 電子地図の管理等

[システムで利用される地図データ]

- システムは、「地籍図」と「地番図」を管理しており、必要に応じて「航空写真図」を背景として重ねられるものとなっている。



地籍図
(ベクトル)



地形図
(ラスター)



航空写真図
(ラスター)

4 維持管理

[地図データの更新]

- 年 1 回
- 税務課で更新された地番図データにより更新（業者委託）
- 税務課で 3 年ごとに撮影される航空写真データにより更新（業者委託）

[農家・農地台帳データの更新]

- 年 1 回
- 税務課のデータを抽出し（業者委託）、データ更新は農業委員会で実施
- 住民基本台帳・固定資産台帳は 12/1 に更新、農家基本台帳は 6/1 に更新

5 システム活用事例等

[農業委員会としての利用]

- 農地転用における農地の位置の確認に活用
- 農地パトロールの際に、航空写真を活用

[その他の利用]

- 生産調整や転作の現場確認において、地図を出力して活用
- 証明書は、農家基本台帳の出力を活用

[その他]

- 「遊休農地」：調査は毎年実施しているが、Excel で管理
- 「利用権設定の管理」：県が保有するシステムから出力
- 「生産調整」：別のシステム（GIS ではない）で管理

6 導入効果と今後の課題

[効果]

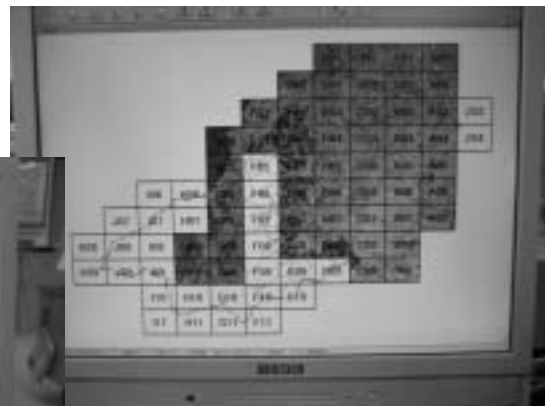
- 農地パトロールを実施する際に、航空写真を用いることで、視覚的に土地を確認することができるようになった。

[課題]

- 地図を管理する画面と農家基本台帳を管理する画面は別画面のため不便である。
- 農家基本台帳で選択した土地の位置を地図で確認することは可能だが、地図上で選択した農地の情報を農家基本台帳で確認することは困難である。
- 遊休農地の管理等で、農家の保有地を地図で一括表示したい。



G I Sの画面



山形村全体図

調査者：小澤 克巳（地域農業経営戦略研究会代表理事）
上野 健太（地域農業経営戦略研究会会員）
武部 隆（地域農業経営戦略研究会代表理事）